

研究テーマ：大学受験用の読解授業を活性化させるための指導の工夫

所属 高知追手前高等学校
氏名 田辺 法人
R G SH3

1 研究の背景

今年度はじめて受け持った3年生の時事英語は、16名（総合科学 13名 自然科学3名）と少人数クラスでありながら、授業中の活動も受け身的で音読などの活動にも積極的でない。また、使用参考書の難易度も高いため、意欲的に読解しようとする態度が見られない場面も多くある。授業は1レッスンを3時間程度で行っており、教員による解説作業とその後のトピックに関連した自由英作文が主な内容である。

2 リサーチクエスチョン

「プレリーディング活動」や「音読活動」をどのように工夫すれば、入試問題に対する、生徒の意欲的な読解態度を引き出せるか。

3 予備調査

予備調査1 授業観察（6月）の結果

ウォームアップが楽しそうなのは、5名程度である。その後のテキストの読解場面では、最初は全員が問題を解こうとするが、5分くらいするとテキストをぼんやり眺める生徒が多くなり、10分くらいでほとんどがテキストを読もうとせず、こちらの指示があるまでしずかに座った状態である。教員の解説時には、テキストにこちらの説明を書き込むものが半分くらいで、あとのものは黙って聞いている。指名しても答えを言おうとする生徒はすくない。音読についても教師のあとについて読む声が非常に小さく、何人かは全く口が動いていないものもある。

予備調査2 英語力を示すデータ

・ベネッセ 6月マーク模試 平均偏差値 53.2点

総合科学52.9（男子5名：51.2点 女子8名：60点） 自然科学54.3

・定期テスト 平均点 60.8点

予備調査3 授業アンケート（10月）

- | | |
|-----------------------|-----|
| 1) この問題集自分の英語力 Up に必要 | 13名 |
| 2) 音読は大事 | 14名 |
| 3) 周りの声が小さく音読恥ずかしい | 13名 |

4 仮説の設定

（1）仮説

仮説1 授業の中になるべくペアワークや音読などの活動をくわえることで、積極的な授業参加が期待できる。

仮説2 英文を読む前に、難解な語句の意味や背景知識を与えておくことで読解が容易になり、読解に対して意欲的に取り組める。

仮説3 自己表現の素材として英文を読むようなタスクを、あらかじめ設定しておけば意欲的な読解態度が期待できる。

（2）実践の方法

- ・語彙プリントによるペアワーク→テキスト読解
- ・さまざまな音読活動
- ・和訳配布による解説作業の負担減

5 計画の実践

上の方法に従って、ウォームアップを毎時間行い、ワークシートも以前は市販のものをそのまま使っていたが、段落毎に大意把握の設問と時間設定があるものに変え、緊張感をもって問題に取り組むようにした。生徒は語彙プリントを使用しながら、大意をつかみ、その後問題集に挑戦するという作業をだいたい20～30分で終え、和訳シートで解説作業。出来るだけ解説にかかる時間を減らし、浮いた分をペアワークや音読にという流れで行った。

6 実践の結果

約2ヶ月足らずの実践だったが、事後アンケートでも14名（2名欠席）中9名が「以前より授業に意欲的に取り組めた」と答えており、授業中に対する参加意欲は以前より増したように思える。以前なら、問題に取り組んでも最初の数分であきらめる生徒が半分くらいおり、こちらからの質問にも黙ったままのものもいたが、少なくとも返答しようという態度が多くなった。また、同じく9名が「以前より音読に意欲的に取り組めた」と答えており、実際授業中に音読する声も活動によって差はあるが全体的に以前より大きくなった。なにより、以前は授業中に全くなかった「笑い」や「質問」が時折見られるようになった。

7 結果の検証

実践をはじめた10月の時点と、予備調査1の授業観察をおこなった時点では生徒の語彙力や文法力に大きな開きがあると思われるため、生徒の英語力向上が「英文読解への意欲」を増した直接の原因かもしれない。ただし、事前アンケートでわかるようにこのクラスの生徒は表面的には授業に積極的でないように見えても、もともと授業に積極的に参加したいという気持ちを持っていたことは明らかである。ワークシートや音読を少し工夫することで「意欲的な読解態度」が以前より引き出された可能性もあるが、おそらく、上のようなことに加え、受験を目前にひかえた生徒達は問題集を解くことに真剣に取り組まざるを得なかったことなどもひとつの原因であろう。

8 成果と今後の課題

まがりなりにもアクションリサーチらしきものに取り組んでみたものの、予備調査や仮説の設定といったところが十分にできておらず、授業や生徒の態度が変化する様子を具体的に実証できるところまでいっていないことが課題となって残っている。そのため、こちらの漠然とした印象と生徒からのアンケートでしかこの活動を振り返ることができない。今後は、より客観的にデータをとることが、課題である。

ただ、大学進学を強く意識する3年生に対して、2ヶ月足らずとはいえペアワークなどで授業を活性化しようと試みたことは大きな勇気となっている。週に3時間しかない選択教科に対して、以前ならこういう試みに時間を割くことはなかった。毎回受験問題集の解説者という役割を行うだけの授業が、この学校の生徒のニーズにあうことだとつまらない授業をする自分を納得させていた。

今回アンケートに答えた生徒はほとんど受験生でも音読は大事だと答えている。こちら側の一方的な思いこみや自分に対する言い訳で、授業を変えようとしなかったことを反省させられるきっかけになったことが個人的な成果だとすれば、授業改善の意欲と自分の授業を客観的に振り返る勇気を持ち続けられるかということが今後の課題である。